

## 南魚沼市DX推進計画（案）パブリックコメント（意見募集）の結果

意見の概要	市の考え方（対応）
内容が多岐にわたるので、利用者の需要を整理して優先順位を決め、ある程度方向性が決まったら機能検証を実施して、なるべく早めにDX化を推進することで、計画を実現できると思う。	施策の推進は、事業の優先順位、検証、導入時期、事後評価など総合的に判断しながら進めます。また、利用者の視点に最大限配慮し、見直しを行いながら市民に利用されるサービス提供に努めていきます。
データセンターの誘致には、市が持つ優位性を示すといいと思う。メリットがないと首都圏近郊との競争には勝てないと思う。	国はデータセンターの国内最適配置に向け、設置に前向きな地方公共団体を募り、150以上の団体と意見交換を実施しています。市もこの意見交換に積極的に参加し、データセンター立地の実現性を検討していきます。
起業・創業支援の充実では、高速なネット環境やセカンドモニター、プライバシーを確保できるミーティングスペースなどを設置してほしい。また、宿泊施設と連携して設置し、安価で泊まることができると利用しやすいと思う。	市内では複数のコワーキングスペース（さまざまな職種の人たちが空間を共有して、仕事をするスペース）が設置され、柔軟な働き方を実現する場、ビジネスを生み出す場として活用されています。宿泊施設と連携して試験的に実施したワーケーションプランの結果も踏まえて、今後も魅力ある支援をさまざまな観点から考え、事業内容の充実を図っていきます。
DX化を推進するには、データの利活用が重要になると思う。専門チームを創設し、戦略的にデータ活用を行うための検討をすることで、EBPM（証拠に基づく政策立案）の推進にもつながると思う。	データの利活用や戦略的活用は、DX化の推進で重要であると認識し、専門チームの必要性も検討していきます。 データ利活用の重要性を受けとめ、できるものからEBPMの推進をしていきます。
市の自然と調和した近未来の街づくりをめざしてほしい。雪や太陽光発電など、自然エネルギーの活用の可能性を模索してはどうか。	デジタル技術の進展は著しい状況にあります。最新の情報を収集して、関係機関と協力しながら、市がめざすべき将来像「自然・人・産業の和で築く安心のまち」実現のために、雪をはじめとする自然エネルギーの活用は、特に力を入れて推進していきます。
第2章の現状と課題のモバイル端末の利用拡大と世代間格差の図表は、市の調査ではないため、市の実情を考えてDX化の推進を行うといい方向に進むと思う。	デジタル化の進展による情報格差を生み出さない取り組みは、非常に重要だと認識しています。図表は総務省の調査ですが、市の傾向も類似していると考えています。必要に応じて各施策におけるDX化推進の課題収集に努め、施策展開を図っていきます。
市民全員にわかりやすく、デジタルの必要性を周知することや、市の施策をできるだけ詳細に伝えることが重要と考える。	市報や市ウェブサイトなど、さまざまな方法で施策が周知・浸透されるように努めます。
市の工程表に、デジタルになじむための事業を入れてほしい。DXの標語を「みんなが気軽に挑むデジタル」としてほしい。	高齢者や障がい者などを含め、誰もが気軽にICT機器・サービスを利用できるように配慮します。
デジタル化のために外部委託をした場合、委託先に頼り切りにならないようにしてほしい。	システムの開発や新たなサービスの導入などにあたり、外部事業者の支援を受ける場合は、よりよい成果が出るよう、協議・調整をしながら事業を推進します。
DX化の推進をするにあたり、できるだけ多くの人が利用できるようにしてほしい。	利用者視点に立って、誰もが安心して利用できるように進めます。